

時間割番号: 3204040051					
社会と会計					
■ ■ 担当教員					
笠井 直樹[Naoki Kasai]					
■ ■ 開講学部等	教養教育	■ ■ 対象年次		■ ■ 単位数	2
■ ■ 開講時期	秋学期	■ ■ 開講曜時	月 7	■ ■ クラス	(HU)【彦根】
■ ■ ナンバリング	GEAC03012				
■ ■ 授業形態	オンライン授業(オンデマンド)				

授業の目的と概要

※初回講義ガイダンスに関する情報をSulmsのコースにあげるので確認すること。

【講義形式】
受講者の学習効果を高めると同時に、受講者の学習スタイルの多様性を確保するため、Sulms・MSClipchampを利用したオンデマンド型講義を実施する。
受講者には、自宅あるいはその他の場所からMSClipchampを利用し講義動画(pptファイルに解説用音声を付けたもの)を視聴する作業が求められる。
なお、講義資料についてはSulms上にアップロードされた講義資料(pdfファイル)を各自で入手する必要がある。
また、Sulms上で講義後の質問受付、期末最終試験(Sulmsの小テスト機能を利用)を行うため、こまめにチェックしておくように。

【目的と概要】
この講義では、簿記会計等で扱う会計の計算技術的な側面にはあまり触れずに、会計および会計情報についてその社会的役立ちを理解してもらうことを主な目的とする。
どちらかといえば、会計情報(会計数値)をどのようにして計算するのかということよりも、会計情報(会計数値)が作成される仕組みを理解し、さらに、これらが社会において実際にどのように利用されているのかについて重点をおいて説明する。
具体例を挙げながらできるだけ平易に説明するように心がけるが、扱うトピックによっては多少前提知識が必要な場合もあるので、その場合は適宜こちらから補足的な解説を行う。
なお、併行履修科目として「簿記会計」および「会計学基礎」をあげておく。
また、より発展的な内容を学習したい場合は、「財務会計総論Ⅰ・Ⅱ」、「財務諸表分析論Ⅰ・Ⅱ」、「上級財務会計Ⅰ・Ⅱ」を履修することを勧める。

授業の到達目標

会計情報(会計数値)が作成される仕組みを理解し、これらが社会において実際にどのように利用されているのかを理解すること。

なお、この科目の到達目標は以下のディプロマ・ポリシーと特に関連がある。

【経済学部ディプロマ・ポリシー】

1. 社会人としての幅広い知識と汎用的能力
- ・経済についての専門的な知識と思考力を習得している。

・社会に関わる多様な学問に接し、広い知識と基礎的な考え方を習得している。

・自主的に問題を発見し、課題として解決できるように取り組むことができる。
2. 専門的学識
- (1) 経済専攻

・現代経済学についての基礎的な知識と多角的な考え方を習得している。

・経済現象の基本的な内容と仕組みを理解することができ、その基礎的な分析の仕方を習得している。

(2) 経営専攻

・企業や経営に関する事象を理解するための多くの考え方を修得し、広い視野に立って、企業経営、組織の意義、人々の協働の重要性を理解し、それらのあるべき姿についての意見を述べるができる。

・会計に関する基礎的な知識を修得し、様々な会計問題について適切に考えて議論することができ、さらに創造的な挑戦の試みによって社会に貢献できる。

・資本調達や投資決定を巡る意思決定をファイナンス理論の観点から理解することができ、その基礎的な分析の仕方を習得している。
- ## 授業計画
- | No | 内容 |
|-----|------------|
| 第1回 | 講義ガイダンス |
| 第2回 | 会計の目的と仕組み |
| 第3回 | 複式簿記とは？ |
| 第4回 | 複式簿記と会計の歴史 |
| 第5回 | 財務会計の基礎① |
| 第6回 | 財務会計の基礎② |
| 第7回 | 財務会計の基礎③ |
| 第8回 | 決算書の見方・調べ方 |
| 第9回 | 決算書の見方① |

第10回	決算書の見方②
第11回	決算書の見方③
第12回	決算政策①
第13回	ファンダメンタル分析
第14回	ファンダメンタル分析(続き)
第15回	決算政策②

■ ■ 事前学習・事後学習など授業時間外の学習

講義計画はあくまで予定であり、変更する可能性があることに留意されたい。必要な情報はSulms上にあげておくので必ず確認しておくように。
また、成績評価については、定期試験ではなく期末最終試験(Sulmsの小テスト機能を利用)を通じて評価を行うこととする。

単位取得のためには各回前後に最低でも合計で4～5時間程度の学習が必要である。
本講義では、財務会計・ファイナンス等の基礎知識に基づいた応用的なトピックを扱う。したがって、関連分野の知識を講義開始前にある程度理解しておくことが講義内容を理解するためには有用である。もちろん、受講後に不足している知識を修得することも可能である。

以下に各回の事後学習として学習が必要な内容を記載しておくので、確認しておくように。

- 1. ディスクロージャー制度と監査
- 2. 会計の意義
- 3. 複式簿記の仕組み
- 4. 会計史
- 5. 事業用資産
- 6. 金融資産
- 7. 損益計算書
- 8. 投資家向け情報・有価証券報告書
- 9. 資金の運用・安全性・収益性
- 10. 期間比較・企業間比較・無形(?)の資産
- 11. ROE・貸借対照表の分析・企業の特徴分析
- 12. 決算政策
- 13. ファンダメンタル分析: CF経営分析, グループ経営分析
- 14. ファンダメンタル分析: 安全性分析・補足(BS, フリーCF, 回転期間)
- 15. 利益マネジメント

■ ■ 成績評価の方法

成績評価については、定期試験ではなく、講義期間中に実施する期末最終試験(Sulmsの小テスト機能を利用)を通じて評価を行うこととする。
詳細についてはSulms上に設定している本講義(社会と会計)のコースを確認するよう。

●期末最終試験(1回): 100%

■ ■ 成績評価の基準

会計情報(会計数値)が作成される仕組みを理解し、これらが社会において実際にどのように利用されているのかを理解しているか、また同時に、関連する諸制度・分野の知識を修得しているか、期末最終試験(Sulmsの小テスト機能を利用)によって評価する。
具体的な成績評価基準は下記のとおりである。

- 「秀」: 到達目標を達成し、極めて優秀な成績を修めている。
- 「優」: 到達目標を達成し、優秀な成績を修めている。
- 「良」: 到達目標を達成し、良好な成績を修めている。
- 「可」: 到達目標を達成している。
- 「不可」: 到達目標を達成していない。

秀＝100点～90点、優＝80～89点、良＝79点～70点、可＝69点～60点、不可＝59点以下(不合格)とする。

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教材に関する補足情報

教科書は特に指定せず、Sulms経由で講義資料を配布する。

■ ■ 参考文献一覧

参考書については適宜指示する。

■ ■ 履修上の注意事項

特にないが、併行履修科目として「簿記会計」および「会計学基礎」をあげておく。
また、より発展的な内容を学習したい場合は、「財務会計総論I・II」、「財務諸表分析論I・II」、「上級財務会計I・II」を履修することを勧める。

■ ■ キーワード(「実務経験のある教員による授業科目」は「実務経験」で検索)

複式簿記, 会計史, 有価証券報告書, 財務諸表分析, 利益マネジメント, 倒産予測, 粉飾決算, オンデマンド型講義

■ ■ 備考（実務経験の内容と授業との関連を含む）

■ ■ 参照ホームページ

■ ■ 教員からの一言

■ ■ オフィスアワー

水曜日（12:00～12:50）。用件のある場合は、事前に連絡（メール）を下さい。

■ ■ 連絡先（研究室他）

617研究室（研究棟6階）。

■ ■ 連絡先（電話番号）

■ ■ 連絡先（メールアドレス）

n-kasai@biwako.shiga-u.ac.jp

■ ■ ホームページ

■ ■ 備考（教員情報）